



国際化の最前線から



©ISHIKAWA MASAYORI

「体育」を通じた岡山とカンボジアの国際協力活動

認定特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド 事務局長 西山 直樹

岡山とカンボジアは、「体育」を通して継続的につながっている。

ハート・オブ・ゴールドは2006年からカンボジアにおいての体育科教育支援を開始し、2011年にクエアにて教育・青年・スポーツ省（教育省）の担当官を招聘、2013年から3年間カンボジアにおいての運動会展開事業を実施、2019年には、教育省の独自予算にて、高等学校の指導書作成のための研修を岡山で実施している。



本邦研修全体写真

コロナ禍になり、3年間日本-カンボジア間を往来することができなかったが、2022年9月7日から16日の10日間14名の研修員受け入れを再開することができた。今回の本邦研修で特筆することは、当会がJICA草の根技術協力事業で展開するカンボジアのプノンペン都、バタンバン州、スヴァイリエン州の州・郡教育局担当官、小・中・高等学校の教頭先生、教員を招聘することができたことである。

岡山市立芳田小・中学校、岡山大学附属小・中学校、岡山市立高島小学校の体育授業を視察することで、カンボジアで実際に体育を教える先生方が日本の体育授業における生徒のマネジメントの仕方、できるだけ運動時間を確保するた



岡山大学附属小学校

めの教師の指導技能、授業1つ1つではなく単元全体を通して、生徒たちに知識・技能、思考力・判断力・表現力および学びに向かう力・人間性をどのように教えているのかなどを学び、カンボジアの体育目標である「知識・技能・態度」に当てはめて研修終了後どのようにカンボジアの体育に反映させていくのかを考えることができた。

また、岡山大学では、授業づくりの観点から、生徒たちの学びの深い授業をどのように展開していくか、カンボジアの体育に導入されている「ボカタオ」という伝統武道を例に考えることができた。

研修で来たボウイ・リダ先生は、「このような機会に岡山に来られたことを大変うれしく思います。カンボジア帰国後は今回学んだ内容を活かし、カンボジアの子どもたちが体育を通してより多くのことを学べるように活かしていきたい」と話されていました。

ハート・オブ・ゴールドは、同様の研修を3年間継続する予定でより多くのカンボジア体育関係者が「体育」を通して岡山とつながっていく。

プロフィール

西山 直樹（にしやま なおき）
神奈川県出身。2004年にサンディエゴ州立大学政治学部を卒業後、2005年11月、青年海外協力隊員としてパラグアイに赴任。貧困層の青少年を対象に教育プログラムを提供するNGOに配属され、スポーツイベントの開催などに取り組む。2007年12月に帰国後、市民参加協力調整員などとしてJICAの国内での業務に従事。2012年4月に特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールドに入職し、同年6月に東南アジア事務所長に就任。JICA草の根技術協力事業（3事業）、NGO連携無償資金協力事業、戦略的二国間国際貢献事業などを統括。2022年に日本体育大学体育科学研究科博士前期課程卒業。2022年4月ハート・オブ・ゴールド事務局長就任。